

NO.	研究代表者	採択課題名	研究概要
1	人文学部 教 授 杉山 祐子	「青森スタイル」構築と提言のためのコア課題同定にむけた基盤構築	青森県の基本計画「未来を変える挑戦」が掲げる戦略プロジェクト「人口減少克服プロジェクト」に、人文社会科学的観点から接近し、持続可能な社会への新たなモデルとなる「青森スタイル」の構築と提言のコアとなる課題を同定するための基礎的調査研究を実施する。
2	教育学部 講 師 島田 透	もっどめ〜ぐなると 「あおいもりの地酒」酒質向上事業	科学的情報に基づいた酒造りや品質管理を行うことで、青森県産の清酒の酒質を向上させ、商品力を更に強化させる。
3	理工学研究科 教 授 笹川 和彦	遠隔医療のための視覚・触覚提示に基づいた機構制御システムの開発	慢性的な医師不足により青森県のような地域の医療は疲弊しており、遠隔医療の必要性が高まっている。本事業では、センサシステムを基盤技術とし、触診や聴診、カテーテル操作、外科手術といったヒトの手の感覚が重要となる作業をネットワークを介してフィードバックするシステムと駆動デバイスを開発する。
4	農学生命科学部 准教授 殿内 暁夫	弘前大学発「白神微生物ブランド」の開発と普及に関する研究	これまで酵母に限定してきた取組を他の微生物にも発展させ、5年間の研究スパンの中で弘前大学発「白神微生物ブランド」の開発と普及を通じ、青森県と弘前市における食産業の強化に貢献する。
5	被ばく医療総合研究所 教 授 床次 眞司	原子力災害時に対応可能なモバイル式放射線モニタの開発に向けた基礎研究	青森県の下北半島にはわが国有数の原子力施設を抱えており、本学でも被ばくプロフェッショナル人材育成計画等により放射線の専門家の養成が展開されている。本事業では、青森県民が身の回りの放射線に興味を抱くことができるように、安価であり簡易的かつ、携帯可能な放射線測定器を開発する。
6	食料科学研究所 教 授 嵯峨 直恆	青森県産農林水産物の文理芸術融合型高機能ブランド化に資する実証研究	①青森県産の食材に関する調査を行い、生産現場の現状を分析し、食材の高機能ブランド化の可能性を把握する。②調査・分析の情報から食材の機能性の洗い出しや調理(料理・加工)方法を洗練することで青森県産食材の高付加価値化を図る。